

応仁・文明の乱を歩く

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

戦国時代の幕開けとなる応仁・文明の乱は応仁元年(1467)に勃発した11年間にわたる戦いです。

戦端は、1月18日、畠山政長の陣を畠山義就の軍勢が攻撃した上御霊社(御霊神社)の戦いにより開かれました。いったんは停戦が模索されますが、細川勝元を中心とする東軍と山名宗全(持豊)を中心とする西軍が、それぞれ味方の軍勢を京都に集め、5月には大規模な合戦となります。東軍の本拠地となった室町殿と、西軍の本拠地となった山名宗全邸をはさんだ地域では、東西両軍が衝突し、激戦が繰り広げられました。

この段階では兵力にまさる東軍が優勢となりますが、8月に大軍を率いて上洛した大内政弘が西軍に合流すると形勢は逆転、10月には室町殿の包囲をうかがう西軍が、相国寺の占拠をかけて東軍と戦います。この戦いは両軍ともに甚大な被害を出す痛み分けとなり、以降は、大規模な合戦が減って小競り合いを繰り返しながらも、応仁2年後半頃から戦いは洛外をはじめ各地に拡大していきました。

京都市考古資料館は、「西軍の陣」に因んだ西陣の地にあり、周囲には応仁・文明の乱に関わる史跡や遺跡が点在しています。現在の景観に応仁・文明の乱の激戦を偲んでみましょう。(山本雅和)



⑥百々橋跡

小川に架かる百々橋は激戦地の一つです。江戸時代の石橋の礎石が残されています。



⑫烏丸寺之内付近

屈曲する新旧の堀が重なっていました。合戦のたびに作り替えられたようです。



⑨同志社大学寒梅館

戦国時代の建物の基礎が保存されており、観察することができます。



⑧室町殿跡

足利義政の邸宅である室町殿が東軍の本拠地となりました。庭園や敷地南端の堀が見つかっています。



⑦烏丸一条付近

一条通をはさんで東西両軍が対峙した大規模な堀が発掘調査で見つかっています。



⑬上御霊社（御霊神社）

応仁・文明の乱の勃発地です。石碑は境内西側の鳥居の横にあります。



⑪相国寺

応仁元年10月3日、境内で合戦が行われ、ほとんどの建物が焼失しました。



⑩同志社大学良心館

建物ホールや東壁部で相国寺の調査成果が展示・公開されています。

